



Vol.36 / 2023年冬季号

おばちゃん通信

発行:おばたさおり/横須賀市池上 2-14-1 田中ビル01

【学童クラブの利用料】

今年度より、市は放課後児童クラブ(学童クラブ)の利用料を低減するため、学童クラブへの補助メニューを拡充しました。その結果、どれくらい利用料を引き下げることができたか、今回報告がありました。まず、利用料について、全体の平均月額が 15,160 円から 13,409 円となりました。72クラブ(公設クラブ、令和3年度廃止クラブ、令和4年度新規開設クラブを除いたクラブ数)中、49 クラブが利用料を引き下げたそうです。一方引き下げを実施しなかったクラブにその理由を問うたところ、15クラブが「運営状況が厳しい」と答えたようです。民設の

クラブは市からの補助金と利用者からの利用料で運営しており、利用人数によって補助金額が変わるなど、運営が安定しない面もあります。また、「開設時の借入金返済がある」など、それぞれの学童クラブによって状況が様々なので、市としてしっかりそれぞれの課題を把握し、課題解決に取り組んでほしいと思います。



訂正:前号の通信で、公設学童が2つあるという表記をしてしまいましたが、現在は1つです。今年4月に2か所目がスタート予定です。

【青少年の家廃止に係る市民説明会の開催】



令和6年3月末に廃止予定としている青少年の家のうち、追浜、坂本、衣笠、浦賀、鴨居、久里浜青少年の家について、廃止に係る説明会が実施されました。本市では、人口減少等の背景から、公共施設の将来の在り方等を定める『FM 戦略プラン』を令和元年7月に策定しています。このプランの中で、青少年の家の居場所機能(個人が予約なしで自由に訪れることができるスペース等)を、学校やコミュニティセンターなど各施設が位置している地域の核となる施設へ

移転することで、地域コミュニティの活性化につなげていく方針が示されています。現在青少年の家のランドセル置き場として使われている機能は、各小学校に設置されていく予定の「放課後子ども教室」に移転、団体利用についてはコミュニティセンター等への移転が検討されています。「機能移転」をしっかり行うことが大切だと思います。特に「子どもの居場所」については市民からも子どもたちの意見を聴取した方が良い、という意見も出されており、是非実行してほしいと思います。

【視察報告①福井県鯖江市 JK 課】

私たちの会派、よこすか未来会議では「若者政策の推進」をうたっています。若者への支援というニュアンスではなく、若者たちが自ら考え、まちづくりに参加できるような場所や仕組みを作っていくことの必要性を感じています。JK 課は、鯖江市役所内のチーム名であり、実際の課名ではありません。大人が決めたものをやるのではなく、メンバー自身がやりたいことを考えてやるまちづくりのグループです。年々参加者が増えており、オリジナルの地図作りや商品づくりなど、まちづくりの企画運営に積極的に取り組んでいるそうです。行政に一番遠いところにいると思われる「女子高生」に機会を作り、そしてまかせること。これが JK 課事業でのポイントではないかと思っています。横須賀市においても、若者を利用する「若者政策もどき」ではなく、若者に居場所と出番を作り、その自主性、主体性に任せた「若者政策」が実現できるよう、提案を続けていきたいと思っています。

【一般質問後の進捗確認①包括的性教育】

令和3年6月定例議会で、包括的性教育の推進について質問をしました。その際に教育長は、「生命(いのち)の安全教育」(子どもたちが性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないようにするための教育)に順次取り組む、と答えていました。包括的性教育は、「生命の安全教育」よりもさらに広く、包括的なものなので、包括的性教育の実現を目指していきたいと思っておりますが、まず「生命の安全教育」が実際におこなわれているのか、実施状況について確認したところ、生命の安全教育は

子どもたちの人権に関わる重要な課題と捉えていて、学校では子どもたちの発達の段階にあわせて教科学習だけでなく、生活指導や教育課程内外のあらゆる教育活動の場面などを捉え実施しているとのこと。また、助産師や医師などの外部講師の活用についても、複数の実践例があるとのこと。取り組みの効果的なものについてはしっかりと共有し、全市的に進めていただきたいと思っております。



【一般質問後の進捗確認②医療的ケア児等の支援体制】

令和3年9月定例議会で、日常的に人工呼吸器による呼吸管理やたんの吸引等の医療行為を必要とする児童、医療的ケア児への支援について質問しました。今年度、保育園・幼稚園での医療的ケア児受け入れにかかる看護師の予算は計上されたのですが、その活用について確認したところ、公立保育園では募集をしたものの、条件面で雇用に至らず配置ができていないそうです。看護師を雇用できれば保護者の負担は軽減できると思うので、次年度は採用条件(給与など)を再検討し、雇用できるようにしてほしいと

思います。また、障害のある子どもを保育所や幼稚園等(以下保育所等)で受け入れた場合に、障害児の受け入れ加算はありますが、園によって受け入れ人数などにばらつきがある状況です。どの園に入園したとしてもしっかりと必要な支援が受けられる体制が望ましいと思っております。現状、各保育所等の受け入れや研修体制の把握について質問したところ、受け入れ人数については把握しているが、研修などの状況は把握できていないとのこと。現状障害児を受け入れている保育所等、また受け入れに不安を持っている保育所等に聞き取りを行い、必要な支援を検討いただきたいと思っております。

【視察報告②豊中市社会福祉協議会】

社会福祉協議会(以下社協)とは社会福祉法に基づき設置されている組織で、民間の社会福祉活動を推進し、地域福祉を推進するべく活動をしており、各市区町村や都道府県に設置されています。社協と自治体はともに地域福祉の推進を担っていますが、それぞれの社協によって活動内容が異なります。今回民生常任委員会で豊中市社協へ視察に行きました。豊中市社協はコミュニティソーシャルワーカーを配置し、地域の人たちの課題・相談を「まずは受け止める」ことをし、縦割り行政で解決が難しかった課題の相談を多く受けるようになりました。それらに対応してきたことが、今日の生活困窮

者自立支援法のモデルとなり、現在厚労省の進めている重層的支援体制整備事業(属性を問わない相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業)へとつながっています。

現在横須賀では「断らない相談支援」の窓口はできているので、豊中市社協のように、地域に出てアウトリーチをし、地域づくりを行い、必要な方をつないでいくことを行っていくべきだと考えます。横須賀市と社会福祉協議会の役割分担を意識し、協働して地域福祉を推進し、重層的支援体制を整備していただきたいと思います。

※私の所属する会派、よこすか未来会議のマニフェスト。今期最終年度なので外部評価をいただきました。

評価報告書はHPに掲載しています→



おばたさおりプロフィール インターンにご興味ある方はお問い合わせください。またご意見・質問などは下記連絡先へ。

1985年10月3日生まれ。平作小、池上中、横浜市立金沢高校卒業。UCLA政治学部卒業。学習塾、フリースペース勤務を経験。2015年横須賀市議会議員選挙にて初当選。移動事務所:080-1161-4031またはinfo@obatasori.com